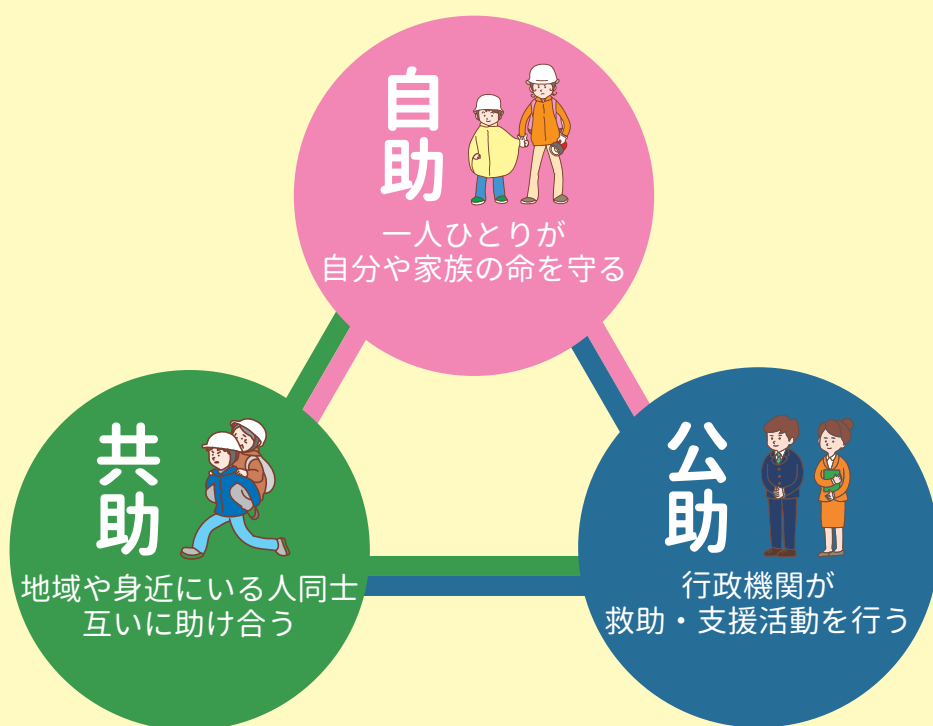


宮崎市ではハードとソフトの両面から事業を展開し「**安心安全なまちづくり**」に取り組んでいます。今後も適切な情報発信に努めてまいりますので、市民の皆様もご家庭や職場で防災について話し合い「**自らの命は自らで守る**」という趣旨をご理解いただき、地域における防災対策にご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

自らの命は 自らで守る



索引

市民の皆様へ	巻頭	避難時に気をつけること	9
ハザードマップの使い方と避難行動の判定フロー	1	マイ・タイムラインを作ってみよう	10～11
避難情報等の発令について	2	アンダーパスの危険性について	12
非常時持ち出し品の準備	3	マンホールトイレシステム	13
風水害・台風	4	自主防災組織	14
土砂災害	5	指定避難所等一覧	15～17
災害時の気象情報等の収集	6	MAPの見かたと地域全体図	18～19
防災に関する知識・緊急連絡	7	MAP1-23	20～65
要配慮者の安全対策	8	わが家の防災・緊急情報メモ	裏表紙

ハザードマップの使い方

- ① 地域全体図から、自宅や自宅周辺など、調べたい場所のマップを開きます。
- ② 調べたい場所が災害の区域内（着色されている）か確認し、災害の種類と危険度を把握してください。
- ③ 災害の危険性がある場合、避難する場所を検討してください。（指定避難所、実家など）
- ④ 避難するための方法を検討してください。（徒歩、車、タクシーなど）
- ⑤ 避難する経路を検討して、地図に書き込みましょう。
- ⑥ 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。
危険な場所がある場合は避難経路を見直しましょう。
- ⑦ 台風豪雨時に備え「避難行動判定フロー」を確認しましょう。



避難行動判定フロー

必ず取組みましょう！

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難して下さい。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
②浸水する深さよりも高いところにいる。
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。
このような場所にお住いの場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
※土砂災害の危険があっても、十分頑丈なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3が出たら、開設している指定避難所に避難しましょう。

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4が出たら、開設している指定避難所に避難しましょう。

指定避難所について

災害の規模に応じて、市が開設する指定避難所を決定するため、全ての指定避難所が一斉に開設されるわけではありません。開設される指定避難所の情報はテレビ（データ放送）、宮崎市防災メール、Yahoo! 防災速報アプリなどでお知らせします。